

日本文理大学ワークショップ報告

～うすき竹宵での活動について～

日本文理大学 工学部 建築学科 3年 山下 竜平
高良 祐希

・竹の特性

■ モウソウチク(孟宗竹)

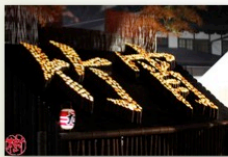
- ・直径18cm、高さ22mになる大型種である。
- ・日本の自生種ではなく、江戸時代に中国から導入されたという記録がある。
- ・材質は、弾力性に欠ける。
- ・建築や農業用資材として利用されるが、籠などの編組に不向きとされる。
- ・タケノコは春一番に発生し、春の味覚の王者とも言われる。



(株) 林野行HP

・うすき竹宵の歴史

- “うすき竹宵”は、「白杵石仏」を造ったと言伝えられている真名長者伝説を再現した儀式です。1998年に大分県で国民文化祭が開かれることを受け、当時の後藤 國利 市長などの提案により1997年に“竹光芸まつり”として始められました。本格的に竹ぼんぼりを並べて町並みを美しく演出する祭りは、日本で初めての試みではないかとされています。
- その後、名称を“うすき竹宵”と改称し、規模も年々拡大し、現在に至っています。



(株) 林野行HP
(株) 大分県

・竹の特性

■ ハチク(淡竹)

- ・直径3～10cm、高さ15m程の大型種である。
- ・耐寒性があり、比較的寒い地域にも生育している。
- ・材質は、細く割れやすい。
- ・茶筌などの茶道用具に利用される。
- ・タケノコは、美味しいと言われるが、市場に出回ることは少ない。



(株) 林野行HP

・竹について

■ 主な竹の種類



マダケ(苦竹・真竹)



モウソウチク(孟宗竹)



ハチク(淡竹)



マダケ(女竹)

(株) 林野行HP

・竹の特性

■ メダケ(女竹)

- ・直径2cm、高さ5m程の中型種である。
- ・主に川岸や海岸などに群生する。
- ・材は、柔らかく、粘り強い。
- ・竹工芸や農業資材などに利用される。



(株) 林野行HP

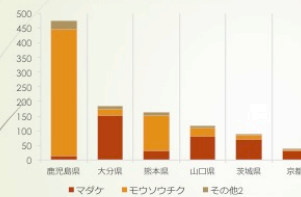
・竹の特性



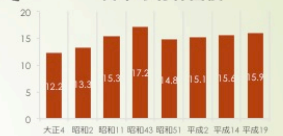
(株) 林野行HP

・大分の竹の生産について

竹林生産量上位5位



日本の竹林面積



日本の竹林生産量



- グラフから日本の竹林の面積は広いものの、生産量は年々減少している。
- 大分は、全国的にみても竹林が多い。
- 大分では、マダケが多く生えている。

(株) 林野行HP

・活動趣旨

- 歴史ある祭りで、「竹」の良さを発見すると共に、竹ぼんぼりが並べられた空間ではなく、竹素材の特性を生かしたデザインする「光のアート」として、ここへ訪れる人たちに、竹の可能性を伝えることを目的とする。

・敷地の様子



・作品の紹介



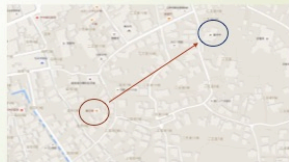
光の川



光の橋

・香林寺について

- 寺院名 富春山 香林寺
- 創建 慶安三年（1650年）
- 臨濟宗妙心寺派
- 旧藩時代は原山の台（仁王座の高台）あり、明治19年（1886年）現在地に移された。ここは家老 川崎家の武家屋敷であった。



・光の川



光の川が流れるようなイメージ

・臨濟宗妙心寺派とは？

- インドの達磨大師さまから中国の臨濟禪師さまを経て、妙心寺開山無相大師さまへと受け嗣がれてきた。
- 自身仏を信じて坐禅に励み、足下を照顧しながら生かされている自分を感謝して、社会を心の花園と念じ和やかな人生を目指している。

妙心寺派の教え

生活信条

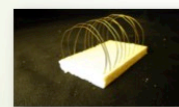
一日一箇は静かに坐って 身と呼吸と心を調えよう
人間の尊厳にめざめ 自分の生活も他人の生活も大切にしよう
生かされている自分を感謝し 報恩の行を積みまよう

信心のこぼれ

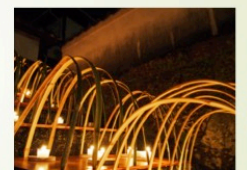
わが身をこのままだと信じて、静かに坐すべし
佛性は本来仏心と信じて、拜んで妙きましよう
社会を心の花園と念じて、和やかに生きましよう

(財) 妙心寺HP

・光の川

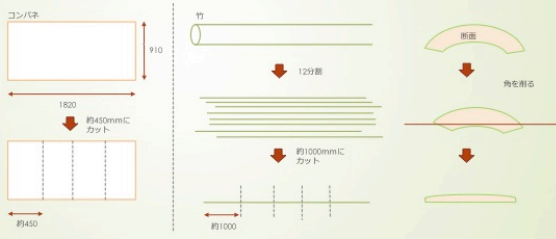


模型写真



・光の川

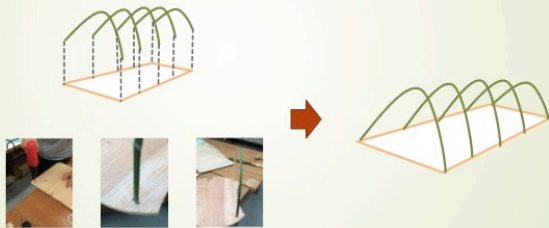
構成



竹器輪廻堂の法集庵様笹竹

・光の川

構成



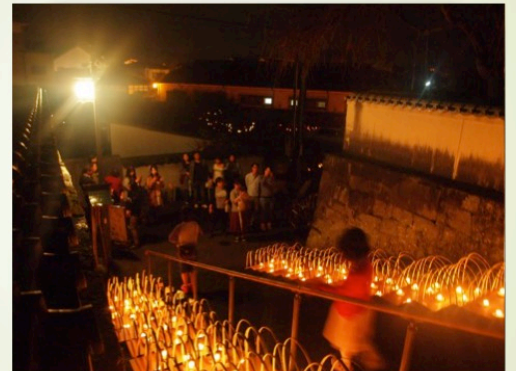
白枠での組み立て作業の様子

・光の橋

構成



光の川



・光の橋

構成



光の橋

